

---

# カトレア嬢の計画

泉夏

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

カトレア嬢の計画

### 【Nコード】

N2289Z

### 【作者名】

泉夏

### 【あらすじ】

侯爵令嬢のカトレアは、王妃候補として宮廷主催の夜会に出席することになる。平穏な暮らしを望むカトレアは目立たぬようやり過ぎす。だが、未だ妃を娶らぬ王の理由を知ってしまい、協力するはめになる。

ここはペペイ王国。

先代が病で急死したため、クリザンテム王太子が23歳という若さで王となった。

周りによく支えられ、治世は落ち着いたものである。

だが、王の隣は未だ空席で、側室すら一人もない。

国民の専らの噂は、どの令嬢がその場に座るかだ。

「私が妃候補に？」

プリユダント侯爵令嬢カトレアは驚いた。

侯爵には息子がいないばかりか、娘もカトレア1人だった。

そのため、彼女がしかるべきところから婿を迎え、家を継ぐものとはばかり思っていたが……。

なにより父がそうだったことを今まで一言も言わなかった。

「一応な。」

「一応？」

きよとんとした娘に、父親は安心させるように笑いかけた。

「名が拳がつているのはもちろんお前だけではないよ。私は遠慮したのだが、侯爵という位を頂いてる手前そうもいかないらしい。」

「あら。娘を王の側にやろうというのなら、敵は少ない方がいいん

じゃなくて？自ら辞退しているというのに……。」

「もちろんそういう方もいたよ。だが、王の側近方は簡単に引いてはくれなくてね。」

「……お父様の娘ですものね。」

カトレアは思わずため息を吐いた。

娘が言うのもなんだが、父であるプリユダント侯爵はとても有能である。

ゆえに彼も王の側近の一人であり、仲間内では、ぜひとも彼の娘に後宮を掌握してもらいたいと思っっているらしい。

王の周りがしつかり固められているため、隙を狙うとしたら女だと思っっている者が多い。

今のところ、後宮には誰も迎えてられていないが、先を見通していることである。

もし、欲深い者の娘や親類が後宮にやってきても、カトレアならば、上手くどうにかしてくるだろうと。

幸い正妃になってもおかしくない家だ。

「皆さん、私を買被りすぎだわ。」

そうつぶやくと、侯爵はカトレアの頬をゆっくり撫でながら言った。

「そんなことはない。カトレア、お前は素晴らしい、私の自慢の娘だよ。……その才覚をそのままにしておくのは正直惜しいと思っっている。だが、無理強いは決してしない。お前が思うようになさい。」

「はい、お父様。」

もちろん父の役に立ちたいと思っっている。

女の身であるから、仕事の手伝いが出来ないことを悔しく思ったりもした。  
だから、亡くなった母の変わりに“女主人”として、家を守ってきたのだ。

だが、女の身であるからこそなれる“王妃”。

はつきり言って、面倒なので嫌だ。

父の所為にするのは違うだろうが、今までそんなことほめかしたこともない。

お前は婿を迎えて、この家を守るのだよ。なんて言ってたのに……。

「面倒な事になったわ。」

「何がですか、お嬢様？」

イポメがカトレアお気に入り紅茶を入れながら尋ねる。

侍女であるイポメは、カトレアが小さい頃から仕えてる、少し年の離れたお姉さんのような存在だ。

だから、彼女には大概なんでも話した。

「私の名が妃候補に挙がっているらしいの。」

「まあ。それはそれは……。」

イポメはちらりとカトレアの顔を見て苦笑した。

世間では名誉あることと誇ってよいのに、我が主はしかめっ面である。

相当嫌そうだ。

「でも一応ってことらしいわ。」

「なんですか、一応というのは？」

「お父様はお断りなさったらしいのだけど、側近の方々がそれを許さなかったのですって。」

「ふふ、随分期待されていますね。」

それを聞いて、紅茶を飲んで少しは表情が和らいでいたはずの顔が、また逆戻りになる。

「期待されても困るわ。」

ぐっと紅茶を飲み干し、ため息を吐く。

ふとあることを思い出し、さらに大きいため息を吐く。

ああ、幸せが逃げていく……。

「早速宮廷主催の夜会が開催されるそうよ。……そういう主旨の夜会に参加しなければならいなんて。想像するだけでおぞましいわ。」

「きつと魔の巣窟ですね。」

「……魔の巣窟……。」

さらにぞつとするカトレアに、うんうんと頷くイポメ。

ただでさえ人の多い所は苦手なのに、様々な思惑が絡む夜会。

きつと色取り取りな小鳥たちがひしめき合うのだろう。

そして親鳥も高らかに鳴くに違いない。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2289z/>

---

カトリア嬢の計画

2011年12月8日04時13分発行